

**B分類****第4学年 社会科学学習指導案**

日 時 令和元年6月17日(月) 第5校時

対 象 第4学年1組 31名

学校名 立川市立上砂川小学校

- 1 単元名 「安全なくらし」  
小単元名 「消防の仕事と人々の協力」

## 2 小単元の目標

地域社会における火災の予防について、消防署は地域の人々と協力して、火災の防止に努めていること、火災の際には警察署や消防団などの諸機関が相互に連携して、緊急に対する体制をとっていることを調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えることができる。

## 3 小単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを調べ、理解している。	①施設や設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現している。	①学習問題を追究・解決するために、社会的事象について意欲的に調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味について粘り強く考えたり、調べたことや考えたことを表現したりしようとしている。

## 4 小単元の指導計画と評価計画(6時間扱い)

時	◇指導のねらい	○学習活動 ◎プログラミングに関する学習活動	評価規準
1	◇疑問を基に学習問題をつくる。	○出された疑問や予想を基に学習問題・学習計画をつくる。	思考力、判断力、表現力等
2	◇学校にある消防設備を調べる。	○学校にある消防設備を校舎図にまとめる。	知識及び技能
3	◇119番の電話は、どこにつながり、どのような人々がかけつけるのかを調べる。	○火事の現場で誰がどのような活動をしているのか。また、119番の電話の後、関係諸機関への連絡の仕組みを調べる。	知識及び技能
4 本 時	◇119番への電話後、火事による被害を最小限にするための人々の工夫や努力をプログラミング活動を通して理解する。	○関係諸機関が相互に連絡を取り、協力し合いながら緊急に対処する体制をとっていることを理解する。 ◎スクリプトを組む活動を通して、関係諸機関が迅速なネットワークでつながっていることを理解する。	知識及び技能
5	◇火事の被害を少なくするための工夫や努力をまとめる。	○消防署の組織的・協力的な体制について調べ、火事の被害を小さくするための工夫や努力について考える。	思考力、判断力、表現力等
6	◇自分の住む地域の火事への備えを調べてまとめる。	○地域の安全な暮らしのために、自分たちが地域の人と共にできることを考える。 ○学習問題について分かったことをまとめる。	思考力、判断力、表現力等

## 5 授業観察のポイント

- ・児童はシステムの完成形をイメージして、それに近付けるよう試行錯誤を繰り返してプログラミングしていた。
- ・社会科における深い学びを実現するために、このプログラミング活動は適切であったか。

6 本時におけるプログラミング教育の要素

■本時で使うもの □本時では使わないもの

プログラミング活動の内容	一度のクリック動作で、複数の関係諸機関に対して指示を発信し、それぞれの関係機関が指示に合わせて台詞を言うなどのアクションを起こすプログラムをつくる。
プログラミング的思考の要素	□問題を見い出す ■こんなものを作りたい ■細分化 ■計画書 ■順次処理 □繰り返し □条件分岐 □変数 □演算 ■試行と修正・改善
使用機材ネットワーク	■大型テレビ ■タブレットパソコン(Windows 10) ■まなボード ■インターネット接続あり(無線)
ソフトウェア準備	■Scratch 3.0 ■SKYMENU Class(発表ノート) ■消防署などのイラストを共有フォルダに保存 授業前にSKYMENU Classを使って配布
児童のプログラミング習熟度	総合的な学習の時間にScratch 3.0を4時間実施 社会科で2時間実施 NHK for schoolとScratch 3.0のチュートリアルを使って学んだ。

7 本時(全6時間中の第4時間目)

(1) 本時の目標

関係諸機関が相互に連絡を取り、協力し合いながら緊急に対処する体制をとっていることを理解する。

(2) 本時の展開

	○学習活動 ◎プログラミング活動 ・予想される児童の反応	☆指導上の留意点 *資料	◆学習活動の即した 具体的な評価規準 (評価方法)
導入 5分	○火事が起きた際に対応する機関について振り返る。 ・消防署・警察署・水道局など  ○本時の学習課題を知る。	☆火事から大切な命を守るためには、関係諸機関をつなぐネットワークシステムが必要であることを児童が気付くようにする。  *全ての火災と全焼の件数(立川)	
火事から大切な命を守るためのシステムを作ろう。			
	○本時の課題を理解して、システム作りに必要なプログラミングの技能を確認する。	☆児童自身が想像しているシステムを作るために「メッセージを送る」と「メッセージを受け取ったとき」のスク립トが使えることを確認する。	
展開 30分	◎関係機関をつなぐネットワークシステムをプログラミングする。  <b>順次処理</b> <b>試行と修正・改善</b>  ◎作品と工夫したところを発表する。 ・「メッセージ1」を複数のイラストで受け取り、同時に命令が届くようにしました。	*災害救急情報センター、消防署、パトカー、水道局などのイラスト ☆*ファイルを開くよう声をかける。 ☆「メッセージを送る」「メッセージを受け取る」は、拡声器のマイクと違って操作できることを確認する。 ☆2人で1台のタブレットを使い、プログラミングするようにする。 ☆SKYMENU Class を使ってテレビに映して発表できるようにする。	
まとめ 10分	○社会科の学習と関連させてまとめる。 ・火事が起きたときには情報が素早く共有されている。 ・安全な暮らしを守るために、様々な場所でプログラミングされたものが使われている。	☆ノートの記述をもとに、児童数名が学習のまとめを発表できるようにする。	◆知識及び技能 火事の被害を小さくするために、関係機関が連携・協力し素早く情報を共有していることを理解している。 (発言・ノート)

